

サハラに眠る先史岩壁画

SAHARAN ROCK ART



世界最大の砂漠 サハラ砂漠には「緑のサハラ」と呼ばれる時代がありました。およそ11,500年前から5,000年前頃まで、サハラは緑に覆われていました。様々な民族が豊かな土地を求めてやって来て、彼らは自然の岩肌をキャンバスとして彩画や線刻画など独自のアートを残しました。

サハラ岩壁画に先行するラスコーなどヨーロッパ後期旧石器時代の洞窟壁画では写実的な動物画がほとんどで、人間が描かれることがあっても多くは単純化された図形です。これに対してサハラ岩壁画は、終末期旧石器時代から新石器時代のもので、動物ばかりでなく人間の様々な姿が描かれています。主題は日々の営みから精神世界まで幅広く、サハラ岩壁画は人間とアートの発展過程での重要な進化を示しています。

サハラ岩壁画は遠く隔絶された土地にあります。展示される作品はすべて実物大であり、実際の岩壁画を目の前にした感動を共有していただければ幸いです。 英 隆行

01 白い巨人と祈る人々 515x308cm

タッシリ・ナジェール (アルジェリア)

狩猟民の時代、円頭人様式

頭に角のような突起を持ち、大きな力こぶと巨大な陰囊を持った3mを超える巨人。その左右にはお腹の大きな妊婦が横たわり、左側には祈るような仕草の女性たちが並んでいる。受胎や安産の祈願とも受け取れる。これらの人物は羚羊の絵の上に重ね描きされている。人物の頭が円く描かれていることから円頭人様式と呼ばれている。

サハラ岩壁画は、奥深い洞窟ではなく、写真のように風化で削られた砂岩の岩陰に描かれている。岩壁画自体の年代は現在の技術では測定できないが、この遺跡では約8,000年前の遺物が出土している。しかし、岩陰遺跡は外部に開かれていて、出土品と岩壁画との関連性は弱く、年代特定の決め手にはならない。